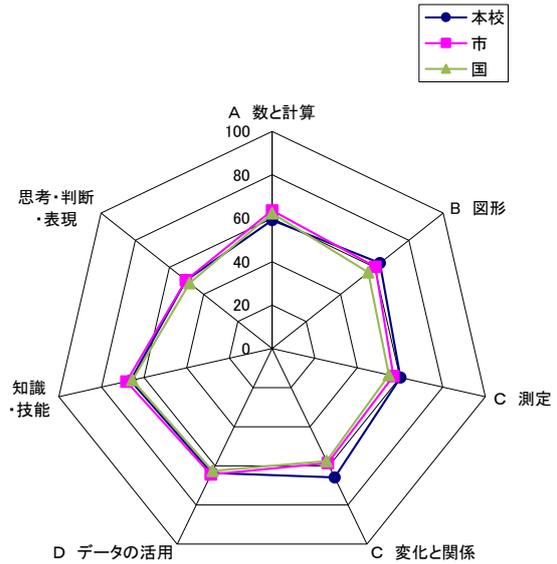


宇都宮市立錦小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	59.1	63.6	62.3
	B 図形	63.1	60.4	56.2
	C 測定	60.2	56.9	54.8
	C 変化と関係	65.9	58.6	57.5
	D データの活用	63.6	64.4	62.6
観点	知識・技能	66.4	68.3	65.5
	思考・判断・表現	50.3	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の平均正答率より低い。 ○示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を表し、計算することができるかどうかをみる問題の正答率は72.7%で、国の正答率を1.8ポイント上回り、無回答率も低い。 ●異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題の正答率は65.9%で、国の正答率を15.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の正答率より低く、無回答も見られるので、朝の学習や宿題などで引き続き、既習の計算問題を繰り返し復習する機会をつくり、確実な定着を図る。
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の平均正答率より高い。 ○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題の正答率は65.9%で、国の正答率より15.7ポイント上回ったが、無回答も見られる。 ○平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題の正答率は70.5%で、国の正答率を12.2ポイント上回った。 ●基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は36.4%で、国の正答率を0.6%下回り、やや正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質や構成要素に関する基本的な知識・技能の定着を図る。 三角形、四角形、円、球の定義や性質の理解と作図の仕方について、確実に定着するよう、練習問題に取り組む機会を設ける。
C 測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の平均正答率より高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題の正答率は56.8%で、国の正答率よりも8.1ポイント上回ったが無回答も6.8%見られる。 ○はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題の正答率は、63.6%で国の正答率よりも2.7ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の場面を使って、伴って変わる2つの数量を表で表したり、表した表から規則性を見付けたりする活動などを取り入れ、数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて、より理解できるようにする。 はかりを使って実測する活動を取り入れて目盛りの読み方に慣れて正確に読むことができるようにする。
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の平均正答率より高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は56.8%で、国の正答率を8.1ポイント上回った。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる問題の正答率は79.5%で、国の正答率を3.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の場面を使って、伴って変わる2つの数量を表で表したり、表した表から規則性を見付けたりする活動などを取り入れ、比例関係についてより理解できるようにする。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の平均正答率より高い。 ○棒グラフから項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は81.8%で、国の正答率を3.1ポイント上回った。 ●簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題の正答率は68.2ポイントで国の正答率を3.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や身近な社会の事象におけるデータを学習で活用し、示された情報から必要な数値を読み取ることに慣れたり、読み取れることを考察したりすることができるようにする。